KTSM 第 66 回実技セミナー 第 1 回小田原食事介助実技研修会

開催報告

開催日時：H30 年 5 月 13 日（日）13 時～17 時までの実質 4 時間（受付 12 時 30 分～）
開催場所：社会福祉法人積善会　ルビーセンター
主　　催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®
共　　催：小田原医師会・小田原歯科医師会・小田原薬剤師会
後　　援：ラックヘルスケア株式会社・株式会社クリニコ・日清オイリオグループ株式会社・渡辺商事株式会社・株式会社大塚製薬工場・富士ライフケア・特別養護老人ホームルビーホーム

＜敬称略＞

開催目的

- 包括的な食支援に関する知識や技術を得ることができる。
- 食べる力を引き出す、ベッドサイドスクリーニング評価の方法を理解することができる。
- ベッド上、車いすでの基本姿勢と五感を活用する食事介助方法が理解できる。
- グループ毎のレディネスに沿った演習を通して、自施設においての実施に繋げることができる。

KTSM 実技認定者（講師・アドバイザー）一覧　＜敬称略＞

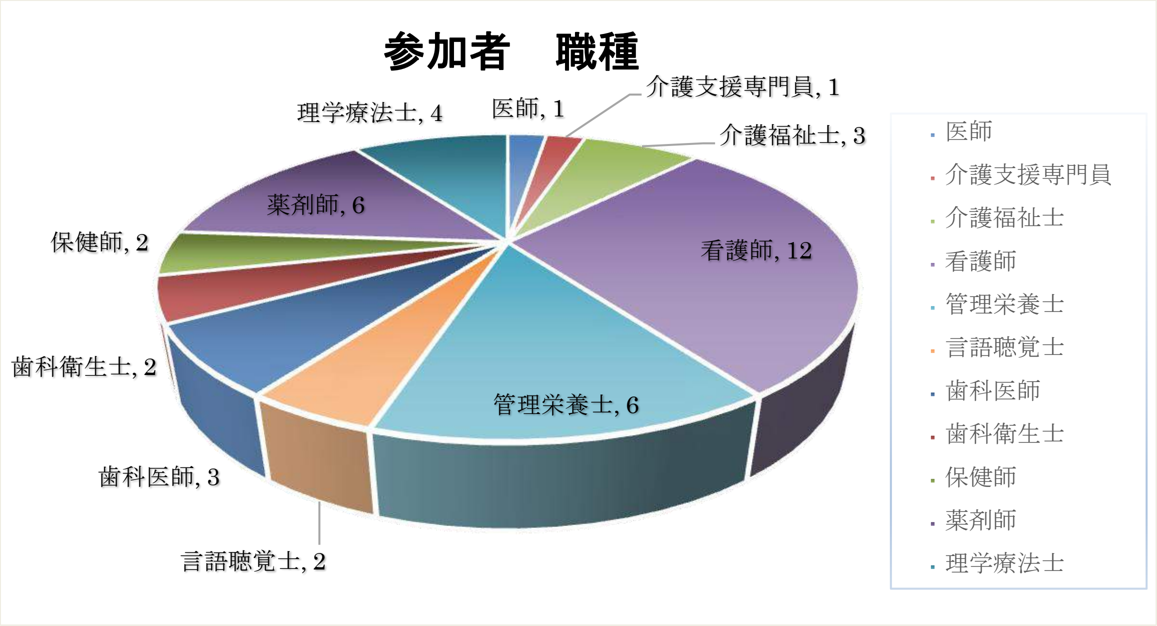
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会® 理事長 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
金　志純	社会福祉法人鶴風会　東京小児療育病院	摂食・嚥下障害看護認定看護師 KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆	NPO 法人口から食べる幸せを守る会®理事 あい訪問歯科クリニック	歯科医師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士） KTSM 実技認定者
居手　香	日本バプテスト病院	管理栄養士 KTSM 実技認定者
大石 朋子	東京情報大学看護学部	看護師　看護大学教員 KTSM 実技認定者
石黒 慎一	JA 神奈川厚生連伊勢原協同病院	看護師 KTSM 実技認定者

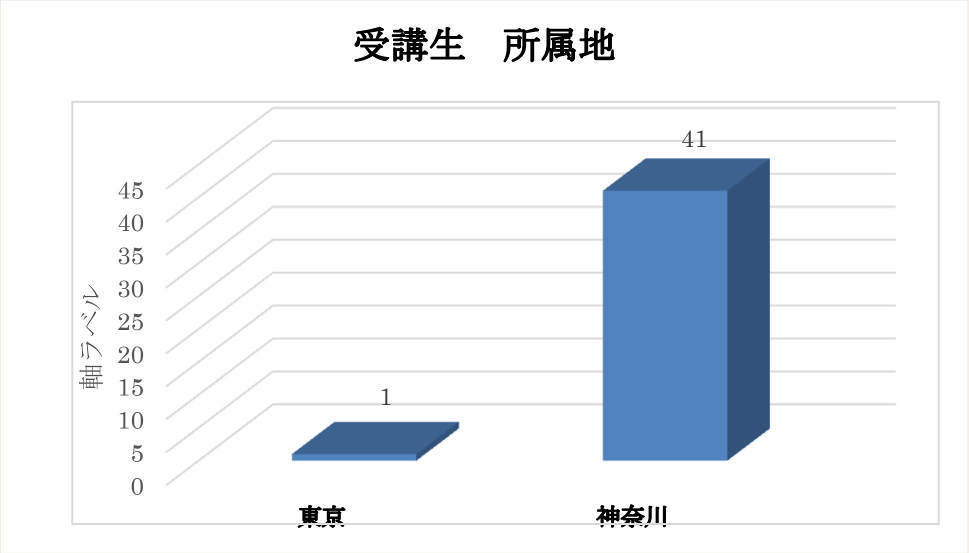
セミナーサポート一覧

氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
富田さつき	医療法人社団　富田医院	医師
露木 弘子	小田原医師会訪問看護ステーション	理学療法士
橘 亜矢子	医療法人社団　富田医院	看護師
三橋 裕子	特別養護老人ホームジョイヴィレッジ	介護福祉士
砂山 明子	都立駒込病院	看護師（摂食・嚥下障害認定看護師）

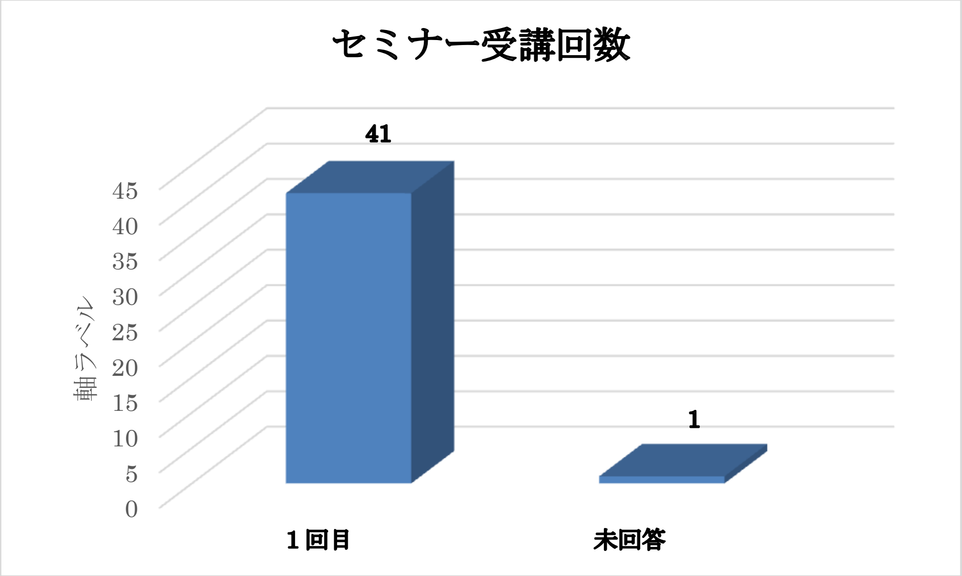
<u>アンケート集計結果</u>　（参加者 42 名　回収率 100%）

Ｑ１　職種と勤務先の都道府県





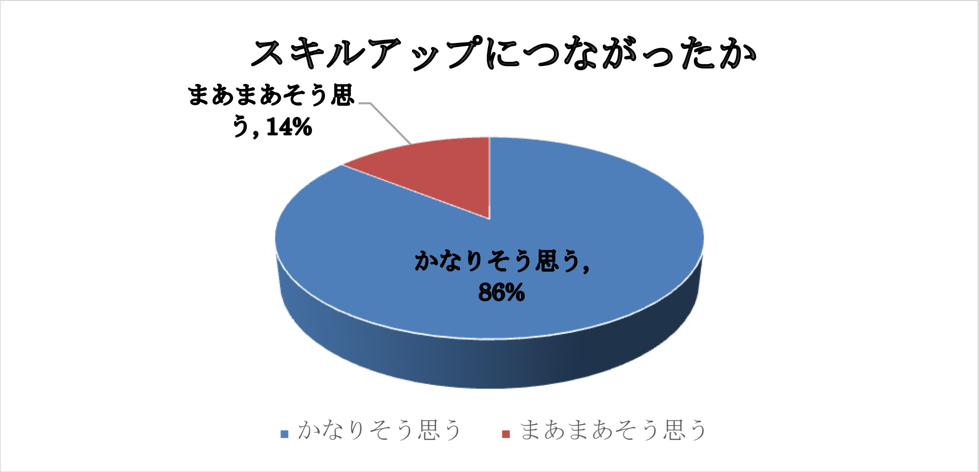
Q２　KTSM 実技セミナー参加回数と参加理由



- ✧ 正しい食事介助のやり方を学びたいと思った為。
- ✧ 食事が食べれなくなっていく方を見ていて、何か出来ないかと思った為、自身のレベルアップのため。
- ✧ 施設での食事作り、介助のスキルを知りたくて。
- ✧ 施設で実施する食事介助に役立てたいため。
- ✧ 少しでも長く、口から食べる行為を支援したいと思ったので。
- ✧ 実技セミナーは初めてです。
- ✧ 誤嚥性肺炎になると絶飲食となってしまうため食事がとれるよう支援したいため。
- ✧ 特別養護老人ホームの介護職員として勤務中です。法改正により、入居者が要介護３以上の方々が主体となり、日を追って重度障害者介助の比率が高まっており、セミナーでの指導を受け、現場レベルの底上げをはかりたく、参加させて頂きました。
- ✧ 病院でもソフト食品が増え、久しぶりに病院勤務に復帰した為、今後の必要性を強く感じた為。
- ✧ 患者様の状態に合った食形態で食事を提供する事が出来る様、評価の方法やポジショニングなどを学びたかった為。
- ✧ 訪問栄養指導を開始するため、食事介助の基本を知りたいため。
- ✧ 食事を召し上がって頂く環境に対してどういうところが問題かもわからずに、どう対処してあげたらよいのかわからずにいました。実施セミナーということで実際に自分が体験してのセミナーということで受講しました。
- ✧ KT バランスチャートへの理解を深めたかったため。業務的に実務（直接の支援）の機会がないため、実践を通した学習をしたかったため。
- ✧ 口から食べることの大切さを知り、では嚥下障害がある場合、どのようにしたら食べられるのか知りたかった。食べ方がわかると、薬の服用も変わるのではないかと思った。
- ✧ 母の嚥下状態が心配で、体験重ねて実務実習したかったため。
- ✧ 服薬指導、在宅で必要なため。
- ✧ 在宅医療、介護連携を進めるにあたり、必要だと感じたため。
- ✧ 母の介護に行き詰まり食事の方法を学びたいと思いました。
- ✧ 脳神経外科病棟で勤務しており、摂食嚥下に興味があったから。
- ✧ 在宅でたべたいと言われる利用者さんの可能性を見出したい、いろいろな方法・技術を身につけたい。また医師の判断のみでなく、自分で評価が出来るようになりたい。
- ✧ リハビリテーションを行う上で、低栄養のため積極的な運動療法を行うことが出来ない患者様が多く、対策が必要と考えていました。
- ✧ 絶飲食の診断を受けた方に歯科からのアプローチが何か出来ないかと思い参加。

- ✧ 在宅はしていませんが患者さんにアドバイス出来たらいいなという事と、まだまだ口から食べれる幸せについて勉強が足らず、もっと知りたいと思ったので。
- ✧ 食事介助を必要とする、障害児にどう援助、介助していけば良いか悩んでいたので参加した。
- ✧ 在宅でご家族に安心して食事をしてもらいたいため、学びを深めたいと思い参加しました。
- ✧ 適切な体位、介助方法を実際に体験したいと思った為。
- ✧ 誤嚥性肺炎を起こす方が多く、どのように食事の取り方を改善していったらよいのかを学びたく、参加させて頂きました。
- ✧ 自分の行っている食事介助に自信が無く、疑問を解決したかったため。
- ✧ 正しい食事介助の方法を習得したいと思った為。
- ✧ 経口摂取介入基礎を病院スタッフと共有できるようアプローチ方法を学ぶため。
- ✧ 口腔ケアに関して携わるようになり、以前から興味のあった摂食嚥下にもっと関わりたいと思ったため。
- ✧ 食事介助・指導の知識習得の為。
- ✧ 服薬指導に応用できると思って参加しました。
- ✧ 以前見学をさせて頂き、今回小田原で開催されると聞き参加しました。「口から食べる、飲む」薬を渡している者として、この状況をわからずして渡し続けることに疑問を持っておりました。
- ✧ 以前から参加してみようと思っていたため。
- ✧ 小山先生の講演を聴き、ＫＴＳＭ実技セミナーの技術が本地域に広まるとよいと考え、その第一歩として参加しました。
- ✧ 理学療法士として病院、老健、訪問看護ステーションで勤務してきて食事を摂れなくなり徐々にＡＤＬが低下していく方を多く見てきました。リハビリテーションを行う前提として活動のため必要な栄養が摂れないと身体機能の向上は図れないと考え、参加させて頂きました。
- ✧ 今まで施設で勤めていたため、嚥下に関しては言語聴覚士に任せていたため、今回訪問リハビリで働くことになり、嚥下についてもっと詳しく実践で使えるようになりたいと思ったためです。
- ✧ 在宅で幸せと思える時間を作り出す、あるいは機会を増やしたいと思い、その方法の一つとして食事は重要だと考えているため。
- ✧ 現在行っている摂食嚥下訓練に生かしたい、知識を深めたいとの思いから参加させて頂きました。

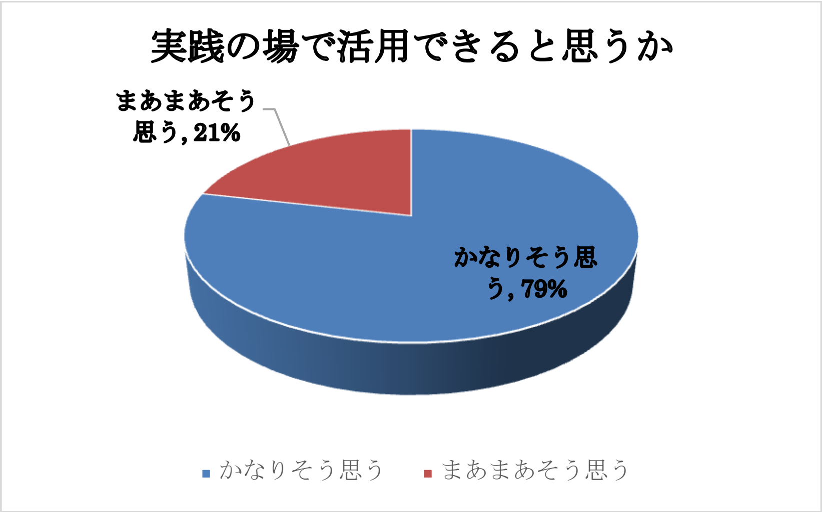
Q３　セミナーはスキルアップにつながったと思うか



- ✧ 自分が患者役になって介助される側の気持ちを体験する事が出来た。
- ✧ 今まで思っていたことが間違っていたことに気づいて良かった。還元していきたい。
- ✧ ベッドや車いすでの姿勢の取り方などのやり方が、実践することでよくわかった。
- ✧ 実技中心であり、治療者、患者双方の気持ちを実感できました。
- ✧ 食事介助の悪い習慣が明らかになった。その改善方法もわかったので、意識しながら実践につなげていきたい。
- ✧ 具体的な実技で体験する事が気づきでもあり、大切なこと配慮しなければいけない所も理解できた。
- ✧ ポジショニング、スプーンの運び方などなど、すべて勉強になりました。
- ✧ 同参加の方々や先生方より御指導頂きながら、今現場で行っている事へのよい課題を頂く事が出来ました。

- ✧ 知らないこと、また気づかなかった事が多かったので勉強になりました。
- ✧ 正しいポジショニングや食事介助の方法を学ぶ事が出来ました。また、包括的に評価する重要性がわかり早速実践出来たらと思いました。
- ✧ 評価は総合的に観察することから始まる。
- ✧ 介助されることをセミナーで経験いたしました。食事を誰かの手を借りてするということは、ほんの少しのこと、スプーンの角度姿勢の少しの違和感など体感することが出来ました。患者さんの身になって考え介助するポイントを学ぶことができました。
- ✧ 今までの自分の食事介助の仕方を振り返り、反省することが多々あった。
- ✧ 具体的な姿勢、食べさせ方など、実践可能なレベルでの演習が出来たため。
- ✧ 今まで何となく行ってきたことを意識して行っていけると思う。特に姿勢や食形態についてはすぐに行いたい。バランストレーニングもやってみたい。
- ✧ 特に食べさせてもらったのでベッド上の姿勢はよくわかりました。
- ✧ まだまだ勉強していかないといけないと思った。
- ✧ 介助者側の目線で食べる援助をしていたことをすごく感じた。
- ✧ 実践することで食べづらさなどを感じることが出来た。
- ✧ 意識せずに行っていたことを今後しっかりと頭に置きながら介助の指導を行っていきたい。
- ✧ 介護者本意の介助であったり指導であったことがよくわかりました。
- ✧ とてもよい勉強になりました。現場で活きそうです。
- ✧ 間違った方法で行っていたことに気づくことができた。
- ✧ 姿勢や環境調整で能力に大きな変化があることを再確認できた。
- ✧ 普段の介助の悪い点、改善点がわかった。
- ✧ 摂食嚥下の評価と実際の食事の反映が出来るようになると思う。
- ✧ 介助される側の気持ちがわかった。実際の手技はまだまだ練習が必要だと思いました。
- ✧ 介助の仕方一つで口から食べると言うことができるということがわかった。
- ✧ 再確認が出来た部分は大きい。
- ✧ 今まで理学療法士として仕事をしてきて身体機能に注視したアプローチのみであったため、利用者様の全身状態をチェックし、改善する必要生があることが勉強になりました。
- ✧ ポジショニングの大切さ、食事介助の仕方がわかりやすく、さっそく実践で使っていきたいと思います。
- ✧ 復習となった部分もありましたがもう一度きちんと見直し、今後の訪問に生かしていきたいと思います。

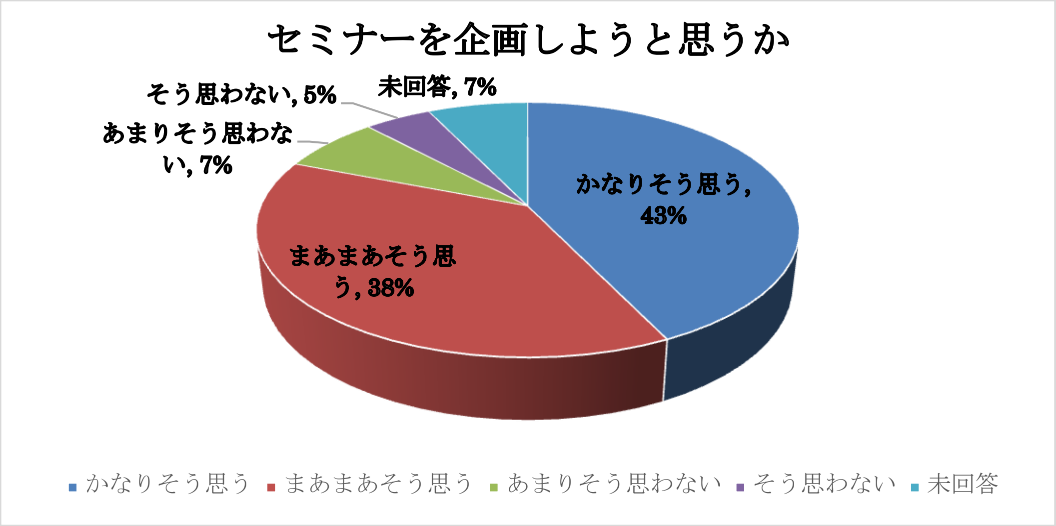
Q４　今後の実践の場面で活用することができるか。活用できる場合はどんな場面で活用できるか。



- ✧ 車いすやベッドで食事介助するときの姿勢を注意する。スプーンの使い方。
- ✧ 食べる前の準備から直さなければいけないことがあり、一つ一つ直していきたい。特に姿勢やテーブルの高さの違いだけであれ程の差があるとは思っていませんでした。

- ✧ 食べない原因を考えてから対応して、食形態も考えていきます。「なぜ食べないのか」そこを考えることが大切なことかと思います。
- ✧ 明日から利用者目線の食事介助できる細かな注意点が多数見つかりました。
- ✧ スタッフへの指導に活用したいと思います。方法だけでなく、なぜそうなるのかをきちんと説明しながら実践したいです。
- ✧ 在宅でおいしく安全に食べる事が出来るよう見守りからしたいと思います。もっとスキルを上げ役に立ちたいです。
- ✧ 病棟スタッフへの教育に活用します。同参加者の方々や、先生方に指導頂きながら、現在現場で行っている事へのよい課題を頂きました。
- ✧ ミールラウンド時に、姿勢やクッションでのサポート、また食器の位置など患者さんの身になって食べることが心地よい状態にしてあげられることから初めて行きたいと思います。自力でスムーズに食べる姿勢にしてあげたいです。
- ✧ 家族向けの介護教室を運営しているためＫＴバランスチャートを全体的に活用をすることは難しいが、家族へ伝える視点など活用出来るのが多かった。嚥下障害のある方への服薬方法も勉強になった。
- ✧ 服薬指導、家族からの相談に応じやすくなりました。
- ✧ 服薬がチューブで出来なくなってきた方、嚥下が落ちてきた方へのアドバイス。
- ✧ 家族介護教室（食事介助の仕方という項目があるため）
- ✧ 親の介護、要介護の方の介護
- ✧ 病棟で行いたい
- ✧ ベッド上での姿勢、また施設での食事の見回りの注意点などを自信をもって指導していきたい。
- ✧ 姿勢の大事さ、食べる時のスプーンの角度などを知る事ができた。
- ✧ 姿勢の保持、セッティングの重要性を学ぶ事が出来ました。
- ✧ 実際の介助の場面に役立てることが出来ると思う。
- ✧ 細かい姿勢の取り方などは特に勉強になりました。
- ✧ まずはポジショニングの大切さを学びました。環境を作ることに力を入れたい。
- ✧ 家族の協力が必要で、家族ご本人がポジショニングを必要と感じていない場合促すことが難しいと思った。
- ✧ シートポジショニングについて見直したい。
- ✧ まずチャートをつけることから初めて見たいと思います。
- ✧ 患者さんの嚥下能力をしっかり考えて投薬できると思いました、病院の先生にも提案していきたいと思います。
- ✧ 薬の形態の提案にすぐ使えると実感しました。また口から食べれない、飲めない方に対しての必要性を見直す良い機会。
- ✧ 自身の整理整頓に活用出来そうです。また時間はかかるかもしれませんが広く大きく共有していきたいと思います。
- ✧ 在宅生活者の嚥下状態スクリーニング、多職種連携の基礎として活用出来ると思います。
- ✧ バスタオルを使ったポジショニング、トイレやベッドで活用します。
- ✧ 受講にあたって指定図書から様々な視点の知識を得ることができ、実際のところどう使っていくのか実践も出来たので勉強になりました。

Q５　自施設でこのようなセミナーを企画して行おうと思うか



- ✧ 今日やったようなグループワークを行い、介助される立場を経験するとよい。
- ✧ すべては難しいが、介護士として出来ることを出来るようにアプローチしていきたい。
- ✧ 自分の技術をもっと上げることが一番ですが多職種で取り組むために検討したい。
- ✧ 障害を持っている人ではなく、”口から食べて幸せに暮らしたいと願ってる人”と捉えられるよう伝えていきたい。
- ✧ 病棟勉強会の実施を検討します。
- ✧ 今回は一人での参加でした。追って他職種への参加を促せるようしていきたいと考え、実施にこぎつけたい。
- ✧ 管理栄養士がすべきことから、地域や利用者さまに発信していこうと思います。
- ✧ まずは自分のスキルアップからなのですが、自分の所属の施設・地域で必要な研修ということは強く感じております。
- ✧ 行政の人間のため実施が難しいです。
- ✧ 介護の現場のケアマネージャーで企画したいと思います。介護士の方々に研修したいです。
- ✧ 在宅では継続して行っていきたい。
- ✧ 車いすのポジショニングと、栄養補助食品について企画したいです。
- ✧ 今はどのように出来るかがわからないが、施設で是非行っていきたい。
- ✧ 研修の企画・実施を今後の課題として検討します。
- ✧ 自分で企画することは難しいがセミナーの機会があればまた参加したいです。
- ✧ 実際の症例をあげて、検討していきたいと思います。
- ✧ 今自分で企画する事には自信が無いです。今後もセミナーへ継続参加して考えておきます。
- ✧ 伝達講習を行いたいと思います。
- ✧ 院内研修から始め、地域へとつなげていきたいと思います。
- ✧ 地域でやるならばもっと基本的なポイントが必要かと思います。
- ✧ 施設での取り組みを検討します。
- ✧ 薬剤師にも必要な知識があるので企画してみたい。
- ✧ 高齢の方の食事摂取を知り、普段薬局での業務を見直す必要があると感じたため。

✧　すでに実施中の実技セミナーをどのように継続させるかを検討中です。
✧　可能な限り多くの食事介助者（現場の人）に対するセミナーを実施したいと思います
✧　今はまだ勉強不足なので、今後行っていきたいと思います。
✧　まだ私は未熟ですのでもっと勉強して経験を積んだら企画してみたいです。
✧　まずは事業所内に展開していきたいと思います。
✧　地域で行うことが必要と以前から感じていたため CM などの事業所にも伝え、地域で取り組んでいきたい。

Q６　今後のセミナーで取り上げてもらいたいこと

✧　バランスチャートの活用方法を教えてほしい。
✧　KT バランスチャートを例題から実習できたらと思います。
✧　基礎を何回も知識・常識として行っていけるよう多職種が研修できるようにしてもらえるとよいと思います。
✧　KT バランスチャートを活用しています。アセスメントが出来るようになりたいです。アドバイザーによって進行・内容が少し違ったような様子が気になりました。変わらぬ事を望みます。小山先生の本に全て書いてあるものでしょうが。
✧　今回ベッド上だったので、車椅子を体験したいです。
✧　いろんな方の症例を知りたい。
✧　在宅では家族協力が得られない方が多いが、ご本人も活気がなく、独居の人に対するアプローチなどを教えてほしいです。
✧　補助栄養食品を利用した献立メニューや利用案について知りたいです。
✧　吸い上げだけでなく組織をして立ち上げていく為の指導も受けたい。
✧　長年（５～７年）食べていなかった方が経口摂取に移行することが出来るのか、またはどのくらいのブランクがあったら経口摂取は難しいかのか。このあたりの疑問への検証をお願いしたいです。
✧　在宅などでの栄養の進め方を教えてほしいです（方法・簡単調理法など）

★セミナー風景★

各グループ写真

とても楽しいセミナーとなりました

今後も口から食べる幸せの輪を広げましょう